

令和 5 年 10 月 26 日現在

機関番号：22401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10507

研究課題名（和文）外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知し介護者援助を行うための看護モデル開発

研究課題名（英文）Nursing model development for outpatient nurses to detect signs of elder abuse and assist caregivers

研究代表者

辻 玲子 (Tsuji, Reiko)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授

研究者番号：20644470

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知し、虐待に至らしめない外来看護支援モデルを構築することである。外来看護師5名に、高齢者虐待に関連する事例においての関わりのプロセスをインタビューし、10事例の実践例を複線径路等至性モデルで整理し、事例の高齢者虐待の予兆と予兆察知及びその支援を分析し統合した。そしてさらに7名の専門家会議での検討、修正を経て、高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援モデルを構築した。

本モデルの内容は、高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援の構造図と高齢者虐待の6つの予兆とその例示、高齢者虐待に至らしめない7つの外来看護支援である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、すでに高齢者虐待防止法や市町村の虐待対応に規定されマニュアル化されている高齢者虐待の発見と対応とは異なり、外来看護で高齢者虐待の予兆を察知し予防するための看護支援という新しい考え方とその具体的な看護支援を明らかにできた。つまり、本看護支援モデルを構築したことにより、通院している外来で高齢患者が受診する主目的である健康問題を入り口にして、看護師が外来看護を展開する中で、高齢者と家族の心身の状況や家族関係を直感的に察知し、顕在化していない虐待の芽を摘み、虐待を見過ごさない予防的なかかわり方を行うための外来看護支援が明らかにしたのである。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to establish an outpatient nursing support model that enables nurses to detect signs of elder abuse and address concerns before a problem arises. Five outpatient nurses were interviewed about the process of involvement in cases related to elder abuse, and 10 practical examples were organized using Trajectory Equifinality Model to detect and predict signs of elder abuse in cases, and analyzed and integrated their support. Furthermore, through examination and revision at a meeting of seven experts, we established a model plan of outpatient nursing support that enables nurses to detect signs of elder abuse and address concerns before a problem arises.

This model includes six signs of elder abuse and their examples as well as seven forms of outpatient nursing support that can prevent elder abuse in advance.

研究分野：老年看護学

キーワード：高齢者虐待 予兆察知 外来看護師 介護者援助 看護支援モデル

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

外来看護師は、診療時に高齢者の身体状況を観察する機会があり、受診に付き添ってきた家族とも関わる機会があることから、高齢者虐待の予防や防止対策に積極的に関与することが求められているが、国内先行研究においては、診療所看護師や医療施設の看護師を対象とした量的な実態調査研究が散見されるのみで、入院中・外来の両方の場において、高齢者虐待疑いになりかねない予兆をとらえ、高齢者及び家族へ予防的にかかわる看護を示す研究は行われていない。したがって、外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知した時や高齢者虐待疑い事例に遭遇した時に、どのような看護をしたらいいのかの具体的な行動指標の提示及び介入研究が進んでいない現状であり、外来看護で高齢者虐待の予兆を察知し、高齢者虐待に至らないように予防するための看護という新しい考え方の外来看護支援モデルが必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知し、虐待に至らしめない外来看護支援モデルを構築することである。

3. 研究の方法

1) 第1段階：スノーボール・サンプリングで協力の得られた、病院や診療所の外来（小児科と産科は除く）で働く看護師5名に、高齢者虐待に関連する事例における関わりのプロセスをインタビューし、10事例の実践例を複線径路等至性モデル¹⁾で整理し、事例の帰結、高齢者虐待の予兆と予兆察知を分析して、統合した。

2) 第2段階：老年看護学と高齢者虐待の研究者、及び外来看護の実践者7名による専門家会議を組織し、「高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援モデル案」について、目的・目標及び、第1段階で得られた結果である予兆及び予兆の例示を提示して、外来看護支援モデル案の基本的考え方及び高齢者虐待の予兆の信用可能性について専門家の意見を得た。

3) 第3段階：専門家会議の意見を踏まえ、高齢者虐待の予兆を修正し、第1段階の10事例のうち9事例の実践を整理した複線径路等至性モデルを用いて、外来看護師の予兆察知後のアプローチを分析し、さらに文献による予兆察知後のアプローチの追加を行って、予兆察知後の支援を作成した。予兆と外来看護支援の関連を分析し、高齢者虐待に至らしめない外来看護支援の構造図を作成した。

4) 倫理的配慮：本研究は、宮城大学研究倫理専門委員会の承認（第1段階；宮城大第1030号，2017年11月29日．第2段階；宮城大第291号，2019年6月27日）を得て実施した。

5) 用語の定義

(1) 高齢者虐待の予兆

本研究では、高齢者虐待及び高齢者虐待の疑い以前の前ぶれ、兆しであり、高齢者虐待や疑いに移行する可能性は考えられるものの、はっきりと高齢者の権利が侵害されていると確信を持っていない状況とする。

4. 研究成果

1) 高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援モデル

今回の研究で構築した外来支援モデルは、下記に示すように、(1)モデルの目的、(2)使用する場、(3) 高齢者虐待の6つの予兆、(4) 高齢者虐待に至らしめない7つの外来看護支援、(5) 高齢者虐待の予兆を察知し高齢者虐待に至らしめない看護支援の構造図から構成されたものとなった。

(1) モデルの目的

通院している高齢者の家庭生活に潜む高齢者虐待の芽を摘む為に、高齢者虐待の予兆をとらえ、予防も含む看護支援を示し、その実施によって高齢者虐待に至らしめないようにする。

(2) 本外来看護支援モデルを使用する対象者と場

高齢者が来院する病院の外来・診療所の看護師

(3) 高齢者虐待の6つの予兆

外来看護師が察知する高齢者虐待の予兆は、高齢者から察知した【なかなか改善に向かわない

身体所見や症状】、【高齢者が介護者に依存する関係性】、介護者から察知した【介護者の介護の意欲低下や脆弱な介護力】、【介護者の精神的余裕を奪う経済的困窮】、【攻撃性が強い傾向の介護者】、【依存し合う様子の家族集団】の6つであった。外来看護師が、高齢者・介護者それぞれから察知できる予兆の理解を深められるように、各予兆の例示を合計20個提示した（表1）。

(4) 高齢者虐待に至らしめない7つの外来看護支援

高齢者虐待に至らしめない外来看護支援は、[通院継続の支援]、[高齢者の身体症状改善の支援]、[高齢者を擁護するための支援]、[介護者の介護力向上の支援]、[介護者の健康ニーズへの支援]、[家族集団の課題を踏まえた介護体制への支援]、[他の機関との連携による支援]の7つであった。予兆ごとの看護支援項目を合計32個提示し、外来看護師が察知した予兆に対して、高齢者・介護者それぞれに、どのような支援を行えばよいかのわかるようにした（表2）。

表1 高齢者虐待の6つの予兆

分類	予兆	予兆の例示
1. 高齢者から察知した予兆	①なかなか改善に向かわない身体所見や症状	1) 改善と悪化を繰り返す褥瘡（事例1）
		2) 喘息発作時の救急車による受診の繰り返し（事例2）
	②高齢者が介護者に依存する関係性	3) 介護サービス利用に際し高齢者は意思を示さず、介護者は高齢者に確認せずに決める（事例1）
		4) 傷の治療のための受診意思を言わない高齢者と高齢者に言わせない介護者（事例3）
		5) 身体状態の悪化にも拘わらず介護者を過剰に賞賛する高齢者（事例7）
		6) 介護者に不満がありながらも、身体所見の把握を拒否して介護者をかばう高齢者（事例9）
2. 介護者から察知した予兆	① 介護者の介護の意欲低下や脆弱な介護力	7) 介護の課題解決のためには支援が必要にもかかわらず、支援を拒む介護者（事例1）
		8) 介護者自身の精神疾患により、期待される介護ができない介護者（事例2）
		9) 皮膚落屑が観察される認知症高齢者と入浴拒否に対応できないままの介護者（事例8）
		10) 外来待合室で言い争う記憶障害のある高齢者と介護者（事例9）
		11) 毎日定時に行う高齢者への高度な医療処置に負担感が強い介護家族（事例6）
		12) 高齢者の身体機能低下及び認知症症状が進行しているため、支援を動いても高齢者に関心を示さない介護者（事例10）
		13) 何らかの問題解決を自分達で抱え込もうとする認知症高齢者と精神疾患を患う介護者（事例2）
	②介護者の精神的余裕を奪う経済的困窮	14) 経済的問題を理由に必要な介護サービスを断る介護者の介護疲労と精神的余裕のなさ（事例1）
		15) 失業と体調不良による経済的問題を抱え、精神的余裕がない介護家族（事例6）
	③攻撃性が強い傾向の介護者	16) 高齢者に過剰なりハビリを強いる介護者（事例3）
		17) 介護力が伴わないにも関わらず、高齢者を手元に置いておくために単独で自宅介護をしている介護者（事例5）
		18) 暴力衝動傾向がある介護者の経済的困窮と精神的余裕のなさ（事例5）
	④依存し合う様子の家族集団	19) 高齢者の定期受診時に4世代家族で外来を移動する様子（事例6）
20) 同居している幼児の発育不良があることを周りにいいたくてもいえない高齢者（事例6）		

表2 高齢者虐待に至らしめない外来看護支援

カテゴリー	サブカテゴリー	予兆ごとの看護支援項目
A. 通院継続の支援	1. 関係づくりによる継続通院の支援	1) 通院が継続するよう、介護者に支持的にかかわり関係づくりをする(事例1・予兆1-①)
B. 高齢者の身体症状改善の支援	2. 高齢者の身体症状改善のための支援	3) 高齢者の褥瘡改善のための介入を行う(事例1・予兆1-①) 4) 高齢者の身体にできた傷に対し受診による治療を勧める(事例3・予兆1-①)
	3. 介護者から高齢者を擁護する支援	7) 高齢者と介護者のそれぞれに働きかけて、意思を引き出す(事例1・予兆1-②) 8) 高齢者と介護者が一緒にいる場で高齢者の意向を聞き出す(事例3・予兆1-②) 9) 高齢者の健康管理のために、身体状況や在宅での様子を高齢者自身から得る(事例7・予兆1-②)
C. 高齢者を擁護する支援	4. 家族内の高齢者擁護する支援	32) 高齢者の身体的・精神的苦痛や不利益がないように働きかける(事例6・予兆2-④)
	5. 介護者の介護方法改善の支援	2) 介護者の介護状況を把握する(事例1・予兆1-①) 5) 高齢者の加齢による身体特性を踏まえた身体ケア方法を介護者に指導する(事例3・予兆1-①)
D. 介護者の介護力向上の支援	6. 介護者の介護力向上への支援	11) 医療処置を見せ、自宅での管理ケア方法や介護に対する気持ちを確認する(事例1・予兆2-①) 22) 高齢者と介護者及び外来看護師と担当ケアマネジャーで支援する体制を作り、介護者に多職種で支えることを伝える(事例2・予兆2-①) 12) 介護者の心理状況を慮り、行っている介護について肯定的なフィードバックをする(事例2・予兆2-①) 13) 高齢者に適した清潔の介護方法を一緒に考え、実施して見せて指導する(事例8・予兆2-①)
	7. 介護者の介護力向上のための支援	26) 介護している介護者を肯定的に評価し、労をねぎらう(事例3・予兆2-③) 27) 介護者支援のために家族全体のアセスメントし、介護者の気持ちを傾聴する(事例5、事例6・予兆2-③)
	8. 介護者の健康ニーズへの支援	15) 介護者の身体的な健康ニーズを把握する(事例2・予兆2-①)
	9. 介護者の病氣治療の支援	28) 介護者の治療のために、介護者の話を傾聴し、方策と一緒に検討し、必要なケアができる他機関につなぐ(事例5・予兆2-③)
	10. 家族の対応・対処能力に合わせた介護体制への支援	19) 高齢者だけでなく家族の背景も把握し、家族の対応・対処能力に合わせた介護体制を検討する(事例2・予兆2-①)
E. 介護者の健康ニーズへの支援	11. 家族の健康状態や就労状況の課題を踏まえた介護体制への支援	30) 高齢者がいる家族の健康状態や就労状況の課題を確認し、協力体制を整える(事例6・予兆2-④)
	12. 外部サービス導入の支援	6) 介護者介護軽減のために訪問による医療支援の導入を検討する(事例2・予兆1-①)
F. 家族集団の課題を踏まえた介護体制への支援	13. 他機関との連携による支援	10) 高齢者と介護者の状況を他機関の専門職と共有する(事例7、事例9・予兆1-②)
	14. 他機関との連携による経済的困窮状態改善の支援	24) 家族の経済的な問題や介護者の労働を専門とする他機関と連携する(事例1・予兆2-②) 25) 家族の経済的困窮状態を他の機関に問い合わせ確認する(事例6・予兆2-②)
	14. 他機関との連携による経済的困窮状態改善の支援	24) 家族の経済的な問題や介護者の労働を専門とする他機関と連携する(事例1・予兆2-②) 25) 家族の経済的困窮状態を他の機関に問い合わせ確認する(事例6・予兆2-②)

G. 他の機関との連携による支援	15. 他の機関との連携による支援	16) 訪問看護師を活用して自宅での入浴助方法を支援する (事例8・予兆2-①)
		17) 認知症高齢者の外部支援利用を訪問看護師と相談する (事例8・予兆2-①)
		21) ケアマネジャー、医師、通所リハビリスタッフなど他の専門職と家族アセスメントの共有を図る (事例9・予兆2-①)
		18) 介護者の介護力に応じて訪問看護など外部からの医療介入方法を検討する (事例9・予兆2-①)
		23) 介護者と地域包括支援センターを繋ぎ、地域包括の介入を誘導する (事例6・予兆2-①)
		20) 地域包括支援センターと家族に関する情報の共有を図る (事例2・予兆2-①)
	16. 他機関との連携による支援	29) 多機関との支援体制をつくる (事例6・予兆2-①)
	17. 家族支援の専門職につなげる	31) 家族病理がある家族と疑って、他の専門職につなげる (事例6・予兆2-④)

(5) 予兆を察知し高齢者虐待に至らしめない外来看護支援の構造図

6つの高齢者虐待の予兆と7つの外来看護支援の関連を構造的に理解できる図1を作成した。この構造図は、高齢者から察知した予兆と介護者から察知した支援に対し、高齢者にアプローチする支援と介護者にアプローチする支援があり、外来看護の特徴である、高齢患者の診療看護から高齢者に着目し、介護者との関係性や介護者の状況及び家族集団に看護の対象を広げ、介護者支援を行う構造を明示している。さらに、地域他機関にアプローチをする支援を関連付けて図示していて、予兆察知後に予防的に高齢者と介護者とともに他機関にアプローチする支援は、他機関と連携して高齢者虐待に至らしめない予防的なアプローチであることが示された。この構造図を外来看護師が参照することで、予兆と支援の関連性を理解した上で、具体的な看護実践に活用する。

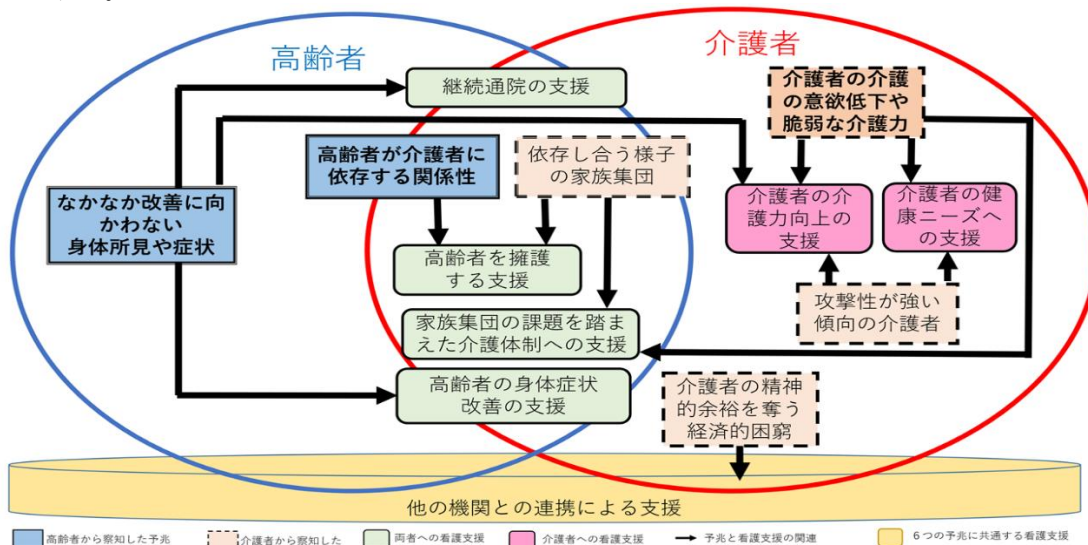


図1 高齢者虐待の予兆を察知し高齢者虐待に至らしめない外来看護支援の構造

(6) 看護師の臨床経験に合わせた本モデルの享受方法

高齢者虐待に遭遇したことのない、自立して所属部署の看護実践ができる熟達段階であるキャリア開発ラダーⅡ以上の看護師²⁾に対しては、(3)～(5)を学修するプロセスを踏む中で、自分が高齢者やその家族と接した過去の事例の中で、予兆と察知される高齢者や家族の状況はなかったかを想起すると共に、今後、外来で高齢者及びその家族に関わっていく時に、本外来看護支援モデルを意識し、意図的に観察することを確認していく。一方で、助言を受けて基本的な看護実践ができる熟達段階であるキャリア開発ラダーⅠの看護師²⁾で、病棟からのローテーションで外来を担当している看護師に対しては、(3)の内容を中心として本研究の事例を元に外来業務の中に高齢者虐待の予兆が潜んでいること、それを察知して支援につなげる重要性の理解を促す。
 <引用文献>

- 1) サトウタツヤ. (編著). TEMではじめる質的研究. 誠信書房; 2009: 131-138, 167-175.
- 2) 原玲子. 目標管理とリンクした看護職キャリア開発ラダーのつくり方・活かし方. 日本看護協会出版会; 2015: 20-21.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 辻 玲子	4. 巻 25 (3)
2. 論文標題 特集3 超高齢社会における外来看護の役割 外来看護師による高齢者虐待の早期発見と予防	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 継続看護を担う体質強化 外来看護	6. 最初と最後の頁 75 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 辻 玲子、大塚真理子
2. 発表標題 外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない予防的看護モデル開発
3. 学会等名 日本老年看護学会 第25回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 辻 玲子
2. 発表標題 外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知し介護者支援を行うための看護モデル開発(2)
3. 学会等名 日本老年看護学会 第24回学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 辻 玲子
2. 発表標題 外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知し介護者支援を行うための看護モデル開発(1)
3. 学会等名 日本老年看護学会 第23回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Reiko Tsuji
2. 発表標題 Signs of abuse in older patients detected by outpatient nurses
3. 学会等名 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

宮城大学大学院看護学研究科 博士後期課程学位論文 2021年3月 論文名 高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援モデルの構築

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大塚 真理子 (Otsuka Mariko) (90168998)	長野県看護大学・看護学部・学長 (23601)	
研究協力者	菊地 悦子 (Kikuchi Etsuko) (90307653)	武蔵野大学・看護学部・教授 (32680)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------